

「ウィズコロナ時代の認知症予防」



日本認知症予防学会 理事  
群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科学 教授  
池田佳生

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が全世界に流行し、パンデミック状況となり1年以上が経過しました。わが国においても猛威を振るっておりますが、一部の都府県に発出された緊急事態宣言を経て、2021年3月現在、第三波における新規感染者数はようやく減少が認められています。新型コロナウイルス感染予防の観点から「新しい生活様式」への転換が求められ、日常生活のみならず、教育、研究や学会などの学術活動においても大きな変革が余儀なくされ、様々な工夫が取り入れられるようになりました。

本学会が推進する認知症予防においても、COVID-19は多大な影響を及ぼしています。ご存じの様に認知症の発症や進行に関係する多くの因子が明らかにされていますが、生活習慣病のみならず、身体的不活動、社会的孤立やうつ状態なども注目されるようになってきました。新型コロナウイルス感染対策として不要不急の外出を控える必要性から、これらの因子の関与が大きくなり、認知機能や運動機能の低下を招くことに繋がらないか、また、よりストレスの多い社会へ移行することにより、認知症を持つ高齢者への虐待が増えるようなことはないか危惧しています。

医療従事者へのワクチン接種が開始となり、今後のワクチン接種拡大が奏功してCOVID-19が早期に終息することを願うばかりですが、短期的には困難な現状があると思います。本学会としてもCOVID-19への対応に関するアンケート調査を実施しておりますが、ウィズコロナ時代の認知症予防の重要性を明らかにして、適切な対策を提言して参りたいと考えています。